

# 気づきの向こう側

令和2年10月2日（金）

自問清掃通信 第4号

## 先日の自問清掃にて

自問清掃の時間が終わり、生徒が次々と清掃道具を片付けていきます。雑巾をバケツで洗い、そのバケツを手洗い場に運んでいきます。バケツの中には掃除をした証として、汚れて濁った水が入っています。手洗い場でその水を流していく生徒たち。教室や廊下などを清掃しているので、バケツの数は6～7杯くらいでしょうか。

バケツを持っている最後の生徒が水を流し終わった後、手洗い場の様子を見ていた私はある異変に気が付きました。水が溜まっています。今までも流れが良いわけではありませんでしたが、ここまではひどくありませんでした。排水溝が詰まっているのだらうと、のぞいてみると、ごみが少しだけたまっていました。見た限りでは詰まって水が溜まるほどではありません。

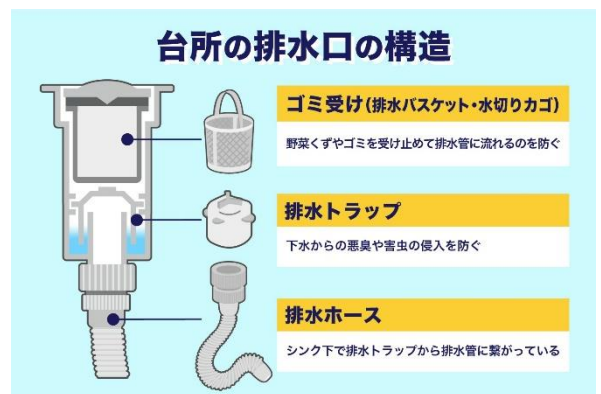
水が流れない原因を確かめるために、排水溝のごみ受けを外し普段あまり見ることのない排水溝の内部を確認しようとすると、ドブのような悪臭が鼻をつきました。

排水溝の内部には、下水からの悪臭や害虫の侵入を防ぐための「排水トラップ」というものがあります。お寺にある釣鐘つりがねのような形をしているものです。この「排水トラップ」とその周辺に溜まったごみがへドロとなり、排水溝の詰まりとなっていたようです。あまりの悪臭に躊躇しましたが、このまま掃除をしないと水が溜まったままになると思い、意を決してへドロまみれの排水溝に手を突っ込みました。

排水溝から「排水トラップ」を抜き出し、雑巾で掃除をしていきます。臭いは相変わらずひどいままです。手にも臭いが染みつくことは目に見えていました。

「汚いな。臭いし、やりたくないな」

掃除をしている最中は、そんな思いも頭に浮かんできました。しかし乗り掛かった舟。中途半端に残したまま終わるわけにはいきません。へドロをすっかり取り除き、元に戻しました。試しに水を流してみると、みるみるうちに流れていきます。嫌な思いをもちながらした排水溝掃除でしたが、水が流れる様子を見て、達成感が沸き上がってきました。この達成感は何から生まれたものでしょうか。



## 利己的・利他的な行動

自分のためにする「利己的」な行動。他者のためにする「利他的」な行動。私は、どちらも大切だと考えています。自他を大切にすることはどちらも必要なことです。ただ、誰かのためにすることは、自分では思ってもみないような力を発揮することがあります。

前述の排水溝掃除。やりたくないと思いつつもやり切った原動力や終わった後の達成感は、きっと「利他的」な思いから生まれたものだと思います。

「利己」という損得勘定だけにとらわれず、毎日を過ごすことができることこそ、人間らしさなのではないかと感じる出来事でした。

(文責：杉浦 悦郎)